

## 人はなぜ人間を分類するのか

7月26日、京都大学が東京・品川の「京大東京オフィス」で開く連続講座「東京で学ぶ 京大の知」(朝日新聞社後援)のシリーズ4「女性として、研究リーダーとして」が始まった。男性に比べるとまだ少ない女性の研究者に焦点をあて、男女共同参画への理解も深めてもらうのが狙いだ。全4回の初回は、京都大学人文科学研究所の竹沢泰子教授が「人はなぜ人間を分類するのか」と題し、体験談も交えながら講演した。



講演する竹沢泰子教授。女性研究者を身近に感じてもらうと、スライドにはプライベートの写真も織り交ぜた

### ●アフリカ人は野蛮なのか

竹沢教授は、1999年、一人娘が通う保育園から送られてきた絵本の一画面に抱いた疑問を、講義の冒頭で紹介した。

――肌が黒く、目のぎょろっとした少年が半分裸のような格好で太鼓をたたきながらジャングルを歩き回っている。

この描写は、日本人の中にある「野蛮なアフリカ人」というイメージを増幅するのではないだろうか。そう感じた竹沢教授は、出版社に抗議の手紙を送った。

「私たちはじかにアフリカの人やヨーロッパの人に会う前に、彼らに対するイメージを持つ。そのイメージによってものを見えています」。絵本は、その象徴的な事例の一つなのだろう。

竹沢教授は2001年には、南アフリカで開かれた国連の会議に出席する際、当時6歳の娘を連れていった。危険だと周囲に反対されたが、娘にとっては、偏見が植え付けられる前に直接アフリカ人に触れた意義は大きいという。

竹沢教授の講演は、白色人種、黄色人種、黒色人種、コーカソイド、モンゴロイド、ネグロイドといった、教科書や百科事典などに掲載されている人間の「科学的分類」に対する批判にも及んだ。「非常に文化的なバイアス(偏見)がかかっているものを、そのまま継承して使っている場合が多いのです。だからこそ科学的分類を人文学の視点から再考することが重要なのです」



自分の生い立ち、留学経験、子育てなどのエピソードを交えながら語った竹沢泰子教授

## ●「科学的分類」は本当に科学的？

では、こうした分類はどのように生まれたのか。

竹沢教授はまず、18世紀の植物学者で、博物学の父と呼ばれるカール・リンネの名を挙げた。

リンネは著書で「人間は一つの種」だと述べ、四つの体液の配合具合によって体質や気質が決定されると説いた。この分類で、ヨーロッパ人は肌の色が白く、活気や創造力があるものとされ、アフリカ人は肌の色が黒く、ずるく、怠惰で気まぐれ

なものだとされた。

その後、ドイツの人類学者ブルーメンバッハ(1752-1840)が各地の人間の頭骨を比較した人種の5分類を発表。中央アジア・コーカサス山脈付近の住民の頭骨が最も美しいとし、白色の肌と合わせて人間の原型だと説いた。

だが、これらの分類は、本当に「科学的」なのだろうか。

竹沢教授は指摘した。「こうした分類は、ヨーロッパの伝統、特にユダヤ・キリスト教文化圏の伝統の上に成り立っているものです」。例えばコーカサス山脈付近は、旧約聖書の創世記に登場し、人類発祥の話として語られる「ノアの方舟」の舞台だ。

また、「科学的分類」には、天使→人間→類人猿→動物→植物と万物には明らかな序列があるという思想や、「白は善、黒は悪」とする色のイデオロギーの影響も見られるという。「ヨーロッパの人が大航海時代から多くのアフリカ人と遭遇し、人間を分類したときに、白といういい色を自分たちに当てはめ、アフリカ人を人間と類人猿の間を埋める半人間に位置づけた」と話した。

## ●異邦人と自分が重なる

どう見ても白人と黒人は違うと言われるが、竹沢教授によれば、固定的な観念を持って境界線を引くことと、人間の多様性は別物だという。「人間は皮膚の色も毛髪の色・形状も多様です。地球上を歩いていけば、徐々に変わることが分かります」

とはいえ、ヨーロッパ人、アフリカ人、アジア人で遺伝情報の違いが大きいという研究もある。それに対して、竹沢教授は



講演後の質疑応答では、講演内容から竹沢教授の研究環境についてまで、さまざまな質問が上がった

地理的偏りを修正してサンプルをとると結果がまったく異なるという有名な研究データを紹介して「すごく違っているように見えるのは、地理的に極端に離れた地域からサンプルをとってきたからです」と反論した。

人間は、分類を抜きにして、物事を比較したり分析したりできない。それを前提にしつつ、竹沢教授は、分類を固定的に考えないことの大切さを説いた。それは、物事の関係性をより多元的に見ること、自分の中にある多面性を意識して他者と接することでもある。

「いいもの悪いもの、美しいもの醜いものというのは全部自分の中にあると考えると、(排除したいもののイメージを重ねた)異邦人が自分と重なってきます。そうすることで自己を他者に開いていく可能性があるのです」。そう述べて講演を結んだ。

(※原稿及びクレジット未記載の写真は朝日新聞社提供)